

『6月の庭』

桑原 紀子

早春、山間の湿地で見つけたアカガエルの卵はオタマジャクシになり、後ろ足が生え、左手と右手がニョキッと出てきて、尻尾がだんだん短くなり、遂に小さな蛙になって、ドクダミの茂った草むらにピョンと出て行きました。空っぽになった浅い水槽、お別れは少し淋しいです。

でも今は6月。梅雨から夏に向かって、命あるものがどんどん変化していく、躍動の季節です。草の茂った小さな裏庭をじっくり観察してみました。

ヤマノイモの葉っぱの一部を折り返して、葉っぱのテントができています。昨年の7月号にも書いた、大名セセリの幼虫



ダイミョウセセリのテント

の巣です。糸でかがった縁から覗くと、黒い頭の幼虫が隠れています。今年もここで幼虫時代を過ご

木々が茂っている日陰で、不意に黒いトンボが飛び立ちました。ここ1週間ほど棲みついているオハグロトンボです。4枚の翅をひらひら動かしながらゆるやかに飛び、金

緑色の胴体が輝いています。近くの川で生まれて、成熟するまでを、餌の虫も多いこの裏庭で過ごすのです。蝶の幼虫も、オハグロトンボもここ数年、6月にいっしょに暮らす仲間です。



オハグロトンボ

巣材に運んでいるのです。スノコが新しい時は見かけなかったのに、スズメバチにとって利用度が高まったのです。夢中でガリガリ齧っているヒメスズメバチを、不思議そうに猫が見ています。

私は不思議の国のアリスのように、生き物たちの暮らしに、目を見張るばかりです。



木を齧るヒメスズメバチ